

# 街歩きヒストリア



縮景園の象徴的なスポット・跨虹橋（ここうきょう）

縮景園は、元和6（1620）年初代広島藩主浅野長晟（ながあきら）の別邸として着工されました。作庭者は、茶人で家老の上田宗箇（そうこ）です。園の名称は、幾多の景勝を集め、縮めて表現したことによると言われています。

宝暦8（1758）年の宝暦の大火により縮景園だけでなく、城下町の建物などが焼失し、その後7代藩主重晟（しげあきら）により再建されました。天明3（1783）年、京都から庭師清水七郎右衛門を呼び寄せ大改修させました。その時できたのが石造りの太鼓橋と堤です。「跨虹橋（ここうきょう）」という夢を感じる名称は、中国の杭州西湖にある長い堤、蘇堤にかかる六橋のうちの一つに由来しています。



七郎右衛門が、幅広大名庭園性を七感の散策で感じる。

原爆投下の折には再び壊滅的な被害を受けたものの、橋はほとんど壊れませんでした。令和2（2020）年に築庭400年を迎えました。

（文・写真 小川敏明さん）

## 縮景園と跨虹橋

上幟町

ここうきょう

（51）

中央公民館エリア（白島、基町、幟町）の街の魅力と歴史とともに紹介するコラム「街歩きヒストリア」。公募で集まった制作スタッフが編集します。編集して下さる方を随時募集しております。

